

地面ヲ闢入レ直ニ土木ノ工事ニ着手。タリ未ダハ功

ニハ至ラレニ費用ハ建物ヲ除キ銀貨九百四十七万

圓ナ下フサル費第ナ。從來ノ所内ニハ乾船渠四個造

船渠ヘ英國ノ雨渠用ニ在リ。重ニ軍艦修復ノ用ニ供ス

國造船渠ヘ相應ル「十二町路」通ヲ往來セリ。所

ハ重ニ木造ヲ製造シケイハム。造船所ハ蒸氣機関ノ修

造製造ニ從事ス。ケイハムニハ深船渠二個乾船渠四個

アリテ乾船渠ノ大ナルモノハ長サ六百尺アリ」。ベン

ブローグノ造船所ハ南ウエールズノ海岸ニ在リ。單

ニ船体ノ構造ノヨニ從事ス。所内ノ面積三十一町歩ア

リ。シーヤニースノ造船所ハテームズ河畔ニメドウエ

ー。兩河合流ノ隅角ニ在リテ專ラ船體修復及ビ遠航治

裝ノ事務ニ從事ス。所内ノ面積二十三町歩ニシテ深船

渠三個乾船渠五個乾船斜一個アリ。

以上英國海軍直轄ノ造船所ナリ。五所ノ發石乾船渠ノ

總數ハ三十七個乾船斜ノ總數ハ上屋ノ用意アルモノ

ハ三十一個乾船渠ノ面積ハ合計五十三町歩ナリ。此

五所ノ造船所ニテハ砲銃ノ製造ヲ爲サズ又軍艦ヘ糧

食ノ供給ヲ爲ス。ナシ一切ノ兵器ハ海陸軍トモウ

ーリツナニユノ兵器局ヨリ供シ軍艦ノ糧食ハアブトガ

ルト、ゴスボルト、ブリマウス、ホルボウリンノ五港

ニ設置シタル管轄局ヨリ供スルナリ。又此外ニ一旦緩

蘇ノ際英國政府が使用シ得ル所ノ私立鍊船製造所ノ

總數ハ國中ニ凡シ五十箇所アリ。私立蒸氣機關製造所

又ハ私立造船所屬ノ乾船渠ノ如キハ何様ノ急難ニ

臨ムニ即ケア用フ可ラザル程ノ大數アルナリ(未完)

雜報

○室內御射的 惠上より去る八日大雪後ハ御乗馬ハ

稽古を休ませ玉ひ侍從其他近衛士官を召れて室內御

射的と遊ぶる。由に承る。

○皇女增宮 皇女増宮より來る廿五日前十時復皇

居ハ御射的を實行御參拜畢て同十一時 惠上皇

寺を御参り夫々へ達せられたり。

○三品官厚親王 同親王は御葬式は來る廿二日と

御葬禮せら。國慶事ハ豐國國ある祖父故海軍少將

桂久連也。御葬禮定めら。定めら。定めら。定めら。

官吏、御用臣、御用臣、御用臣、御用臣、御用臣、御用

大守等内閣より西京御住居の桂久連也の同宮へ外務

省よりハ各國駐劄の日本公使館及び機械製造の事務ム

ては半旗の禮を行ひれたるよし。

○機方大藏卿 同君より過日來病氣にて引籠り居ら

る。ケ添づ快方より起れざるより日々の御出勤あれ

なきよし。

○川村海軍卿 川村海軍卿より明十八日東京出發よ

て豆州熱海温泉へ入浴の爲め赴むる。よし尤も彼

地滞在ハ二週間の見込なりといふ。

○蜂須賀茂韶君 蜂須賀全權公使に愈來る三月十

日前後の郵船次第任地佛國へ出發せふる。都合ある

地滞在ハ二週間の見込なりといふ。

○長谷川大佐 大坂鎮臺參謀長長谷川歩兵大佐ハ主

の程中部監軍部參謀長を命ぜられぬ。

○清口直正君 宮中祇候華族從五位清口直正君は昨

日式部寮御用掛兼務を命ぜられたり。

○穆麟德氏 朝鮮國稅關雇ひの獨逸人モーレンドル

氏ハ該國ハ内情及び富源を視察せん。さめ内地より向

け既に出發したりと又右終れば稅關役員の儀より付さ

道、電信の兩局へ更に備入られたるよし。

○出張 本社々主中上川彦次郎は埼玉縣談話會員の

南京より赴く由上海マーキュリに見へたり。

○プリンドレー氏 赤羽工作分局は一昨日海軍省へ

引渡される。付御雇英人プリンドレー氏を始め職

工二百名ハ同日海軍省へ雇換に成り其餘の職工は鐵

道、電信の兩局へ更に備入られたるよし。

○建白摺 元老院建白摺ハ是迄二月毎とふ交代せし

められしタリ。但し右の同號達ハ官廳所轄及び人民所有の西洋形

りと評議中なりとか。

○煙草稅改正 大藏省租稅局より此程改正發布

せられし烟草稅の徵付不充分の廉ある。付猶改正

さる。よしみて昨十二月より同局長代理有尾少書記

官ダ會長とあり同局委任官中一同の會議を開かれし

といふ。

○驛遞區 驛遞局より來る三月一日より驛遞區編

制法を更正され全國を五十三ヶ所の驛遞區より

每驛遞區を驛遞出銀局と設け(區域の廣き諸所へ

更に分局を置く)又驛遞區を分て驛便局と謂ひ每驛

便局より郵便局一箇を設けられ東京驛遞區の事務ハ本

局之を直轄し郵便局は事務の要選出

トる尤も出張局并ぶ分局共新官設

運ばれ且郵便線路並み差立時間も更

遅行する趣みて昨日野村驛遞官より

連せられたり區名等ハ次號より記載

○神宮御造營期限 伊勢神宮御造營

總裁より其筋へ上申せられると開

月中被地より事務局を置く事ト本會

取ア漸次工事にも着手せられしダ右

成する。來る明治廿二年中の見込を

總裁より其筋へ上申せられると開

總裁より其筋へ上申せられると開